

瓦屋橋 かわらやばし ● Kawaraya-bashi
(東横堀川)

瓦屋橋は、元禄時代中期以降に架けられたと考えられている。橋の東側には、今も瓦屋町という町名が残るように、瓦の窯や土取場があり瓦の生産が盛んに行われ、この地には御用瓦師・寺島藤右衛門(てらしまとうえもん)の請地があった。寺島氏は豊臣秀吉の御用瓦職人でもあったが、大坂の陣で徳川方に内通したことで、後の徳川幕府から瓦の土取場として上町台地西辺の地、約4万6千坪を借り請けたといわれている。当時、大坂夏の陣で焼失した大阪の町の復興に瓦屋根の需要が高まり、橋の東詰に瓦を積み出す施設が設けられ、船の往来で賑わった。

ちなみに松屋町の人形は、瓦屋町の瓦職人が仕事の合間に焼いた素焼きの人形が評判となり、人形店が立ち並びきっかけになったといわれている。また、橋の西詰南側には「お染久松新版歌祭文」のモデルになった油屋があった。

これまでは木橋だった橋が、近代橋になったのは昭和7(1932)年で、簡易的な構造の鋼桁橋に架け換えられた。

現在の橋は、昭和41(1966)年に強度を高めた橋に架け換えられ、同45(1970)年に歩道部が拡幅された。さらに平成10(1998)年には、橋面の美装化工事により装いを新たにした。

